

＝ 病院の理念 ＝
人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 454 2022年 6月号
〔毎月5日発行〕
〔定価1部20円〕
発行 東京勤労者医療会東葛病院
院長 井上 均
〒270-0153 千葉県流山市中102-1
TEL 04 (7159) 1011(代)
FAX 04 (7158) 9202
http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/

ワクチン重症化予防効果について

東葛の医療
ワクチン接種



演砂一光医師

感染第5波・第6波の 取り組みを経て

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して2年半を超え、もううんざり、という気持ちになってきている方も多いかと思えます。さて、最近、このような声をしばしば耳にします。

「ワクチンは本当に効果あるの？ 打ってもコロナになってる人いるよ。それに、今のコロナにかかっても、軽いからしなくてもいいんじゃない？」

確かに、現在流行のオミクロン株では、以前と比較して重症化する割合や死亡する割合は低下しています(図1)。

2022年1月から2月にかけては、第6波のオミクロン株が優勢となり、重症化・死亡の割合はさらに低下しています。

図1は、この中で②のワクチンについてお話しします。そもそもワクチンは感染予防効果(コロナにかからないこと)もありますが、それ以上に重要なのが重症化予防効果(コロナにかかっても、重症にならないこと)です。

	波	主な株	重症化する割合 (%)	死亡する割合 (%)
2020.1-4月	第1波		9.80	5.62
2020.6-8月	第2波		1.62	0.96
2021.7-10月	第5波	デルタ	0.98	0.31
50歳代以下			0.56	0.08
60歳代以上			5.0	2.5
2022.1-2月	第6波	オミクロン		
50歳代以下			0.03	0.01
60歳代以上			2.49	1.99
季節性インフルエンザ				0.006-0.09

図1 新型コロナウイルス感染症の重症化・死亡の割合

21・7・9月(第5波、デルタ株優位)には123人の患者さんが入院しましたが、内6人が残念ながら亡くなりました。2022・1・3月(第6波、オミクロン株優位)では85人の患者さんが入院し、内コロナを直接の原因とする死亡は1人でしたが、4人がコロナ自体は一定回復したものの、他の病気を合併し退院することなく亡くなりました(コロナ感染症全体ではなく、入院患者さんのみをカウントしていることに注意)。

まだワクチンを接種されていない方、あるいは1、2回接種したものの副反応を心配している方、今からでも遅くありませんので、是非この機会に行うことをお勧めします。

(この文は、2022年5月14日現在記しているものであり、今後の流行状況などによっては変わりますものであることをご了承ください)。

「東葛の健康」5月号診療体制(4面)で誤植(2022年4月→5月)がありましたお詫びして訂正いたします。(編集部)

2022年 1-2月*	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-
全体	0.02	0.00	0.00	0.01	0.05	0.12	0.58	2.03	4.25	6.48
ワクチン接種	3回	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.31	0.95	2.15	0.97
	2回以下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.11	0.47	1.94	3.67
	なし	0.02	0.00	0.00	0.03	0.09	0.50	1.72	3.83	7.62

2022年 1-2月*	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-
全体	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.03	0.29	1.23	3.67	6.21
ワクチン接種	3回	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.31	0.63	1.79	0.97
	2回以下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.02	0.22	1.14	3.15
	なし	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.17	0.63	2.00	6.63

図2、3 (参考 2022年4月版 新型コロナウイルス感染症の「いま」に関する11の知識)

聴診器

5月3日有明の憲法集会後、東京・京橋の国立映画アーカイブ開催の「日本の映画館展」を観た▼「活動写真弁士番付表」や「目玉の松ちゃん」尾上松之助主演のポスターなどとともに、人情紙風船など数本を撮り、若くして戦場に散った(享年26歳)天才監督山中貞雄。その優れた才能と無念を、親友小津安二郎(！)が切々と石碑に刻んだ拓本に涙した▼自宅近くに「亀有名画座」があった(1999年閉館)▼特殊な映画の専門館であったため、平日は閑古鳥、春・秋の「東映まんがまつり」で糊口をしのがれていた▼その際、切り盛りされていたご夫婦二人で映画館の意匠を総取り替えされるさまも微笑ましかった▼街のシンボル、かつての映画館の姿を覚えておられるか▼コロナ禍は「映画館で映画を見る」というごく当たり前の前だった人々の営みの基盤をも揺らしている▼浅草に日本初の映画常設館「電気館」が出来て120年。映画館と人々の関わりを歴史をふり返り、あの場が生み出した熱量を想う。(よ)